



2023年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023年4月1日～2024年3月31日)

発行日: 2024年5月30日

ごあいさつ

RCC文化センターは、2019年8月にエコアクション21の登録認証を受け、環境経営に取り組んでいます。コロナ禍で大きな影響を受けましたが、既存事業の効率化の重要性を学びました。また、これからの時代にフィットしたビジネスを考えていく必要性も実感しました。それらを進めるためには、環境に関する意識を高めることがより一層重要になってまいります。

当社は、2022年10月に創業50年の節目を迎えました。これからも将来の地球環境に貢献できるよう、お取引先や当社のサービスをご利用される方々、それに地元の皆さまに愛される企業を目指してまいります。

全従業員が、環境負荷の低減と環境にプラスになる取組みを行っていくことを宣言します。

環境経営方針

RCC文化センターの事業領域は多岐に渡っています。貸会議室やカルチャースクールの運営、店舗の環境演出提案、公共施設の指定管理、生命保険や損害保険の取り扱い、広告立案やイベントの企画運営が主な内容です。

当社のスローガンは「あなたに...プラス」。信頼されるパートナーとして、常にお取引先、ご利用される方々のより一層の「プラス」を考える、そんな想いを込めています。持続可能な社会づくりに向けて、積み重ねてきた多様な専門性を生かして、環境経営を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 年度毎に環境経営目標と達成手段を定め、継続的な改善に努めます。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。
4. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
5. 水使用量の削減を推進します。
6. 紙使用量の削減を推進します。
7. 事業活動を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の取り組みを進めます。
8. 教育訓練や日々の活動などにより、従業員の環境意識を高めてまいります。

制定日： 2018年11月1日

改定日： 2023年6月30日

代表取締役社長 出田 秀

取組の対象組織・活動

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社RCC文化センター
代表取締役社長 出田 秀
- (2) 所在地
本 社 〒730-0015 広島市中区橋本町5番11号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 城 雅治 TEL:082-222-2215
FAX:082-222-2270
- (4) 事業内容
貸会議室・駐車場・カルチャースクールの運営、保険代理店業、
店舗空間の演出、広告・イベント事業、指定管理による施設運営
- (5) 事業の規模
- | | 本社 | 保険・バルコ店 | 指定管理3か所 | 合計 |
|-----------|---------|---------|---------|----|
| 従業員 (人) | 51 | 1 | 4 | 56 |
| 延べ床面積 (㎡) | 7649.85 | | | |
- エコアクション21対象従業員数(本社) 48名
- (6) 事業年度 4月～翌年3月

□認証・登録の対象組織・活動

認証・登録番号: 0012852

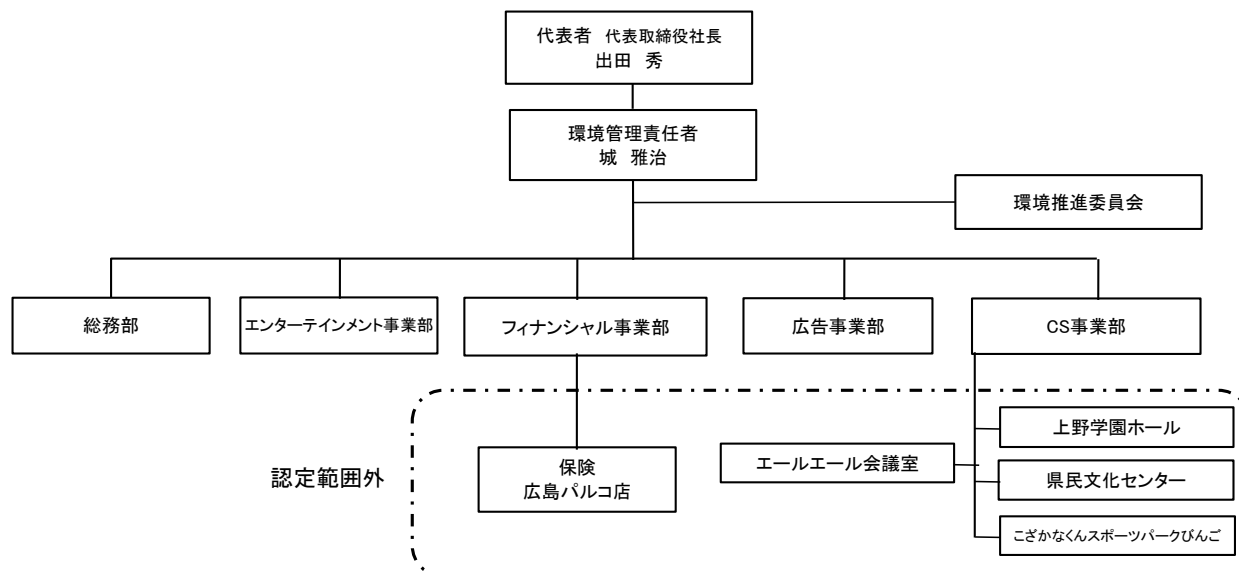
認証・登録事業者: 株式会社RCC文化センター
広島県広島市中区橋本町5番11号

事業活動: 貸会議室・駐車場・カルチャースクールの運営、保険代理店業、
店舗空間の演出、広告・イベント事業

対象事業所: 本社

認証・登録日: 2019年8月1日

□実施体制



□役割・責任・権限表

役職等	役割・責任・権限
代表者(社長) 出田 秀	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しの指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・エコアクション21を運用し維持するための経営資源を用意する
環境管理責任者 城 雅治	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境推進委員会 (各部門から選任)	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成、審議 ・環境経営計画の実績集計、評価、見直し ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 ・環境教育訓練計画の作成と実施の管理、実施結果の評価 ・特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） ・環境経営レポートの作成、公開
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・自部門の環境上の緊急事態の想定と対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□環境経営目標及びその実績

(1)目標

項 目	年 度	2017年度 基準年度	2023年度 目 標	2024年度 目 標	2025年度 目 標
I. 二酸化炭素削減	kg-CO ₂ /年	412,653	387,894	383,767	379,641
	対基準		△6%	△7%	△8%
電力使用量 ※1	kWh/年	575,507	540,977	535,222	529,467
	kg-CO ₂ /年	389,618	366,241	362,345	358,449
	対基準		△6%	△7%	△8%
	達成手段		①事務所内節電運動の継続 ②貸室の室内点灯と空調作動タイミングの調整	①事務所内節電運動の継続 ②貸室の室内点灯と空調作動タイミングの調整	①事務所内節電運動の継続 ②貸室の室内点灯と空調作動タイミングの調整
ガソリン使用量 ※2	ℓ/年	9,929	9,333	9,234	9,135
	kg-CO ₂ /年	23,035	21,653	21,423	21,193
	対基準		△6%	△7%	△8%
	達成手段		①社有車利用時のエコドライブ推進 ②社有車以外の移動手段活用	①社有車利用時のエコドライブ推進 ②社有車以外の移動手段活用	①社有車利用時のエコドライブ推進 ②社有車以外の移動手段活用
II. 廃棄物排出量削減					
一般廃棄物	kg/年	3,088	2,903	2,872	2,841
	対基準		△6%	△7%	△8%
	達成手段		①ミスコピー防止の継続 ②簡易包装商品の積極購入 ③イベント参加者に分別廃棄や可能な範囲での持ち帰りを呼びかけ	①ミスコピー防止の継続 ②簡易包装商品の積極購入 ③イベント参加者に分別廃棄や可能な範囲での持ち帰りを呼びかけ	①ミスコピー防止の継続 ②簡易包装商品の積極購入 ③イベント参加者に分別廃棄や可能な範囲での持ち帰りを呼びかけ
産業廃棄物	kg/年	1,796	1,724	1,706	1,688
	対基準	↑2019年度	△4%	△5%	△6%
	達成手段		①産業廃棄物のリサイクル率向上	①産業廃棄物のリサイクル率向上	①産業廃棄物のリサイクル率向上
III. 水道水使用量削減	m ³ /年	2,386	2,243	2,219	2,195
	対基準		△6%	△7%	△8%
	達成手段		①従業員向け節水意識啓発 ②会館利用者向けにも節水アナウンス	①トイレ利用の節水意識啓発 ②会館利用者向けにも節水アナウンス	①トイレ利用の節水意識啓発 ②会館利用者向けにも節水アナウンス
IV. 化学物質使用量削減 ※3	kg		0	0	0
	対基準				
	達成手段		空調機器がPRTR物質を使用していないか引き続き確認	空調機器がPRTR物質を使用していないか引き続き確認	空調機器がPRTR物質を使用していないか引き続き確認

※1 電力消費によるCO₂排出量計算には、中国電力株式会社の平成29年度実績の調整後排出係数0.677kg-CO₂/kWhを用いています。

※2 ガソリン換算係数の計算には、2.32kg-CO₂/ℓを用いています。

※3 化学物質については、これまで使用した実績はありません。

年 度		2017年度 基準年度	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
項 目					
V. 紙使用量削減	枚/年	381,250	366,000	362,188	358,376
	対基準	↑2019年度	△4%	△5%	△6%
	達成手段		①両面印刷・裏紙利用促進 ②PDFデータ活用で ペーパーレスを推進 ③印刷単価が安い外注化促進	①両面印刷・裏紙利用促進 ②PDFデータ活用で ペーパーレスを推進 ③印刷単価が安い外注化促進	①両面印刷・裏紙利用促進 ②PDFデータ活用で ペーパーレスを推進 ③印刷単価が安い外注化促進
VI. SDGsの取り組み推進					
	達成手段		①貸会議室稼働率向上で、 エネルギー効率を高める ②環境への負荷低減を 目的とした商材の販売	①貸会議室稼働率向上で、 エネルギー効率を高める ②環境への負荷低減を 目的とした商材の販売継続	①貸会議室稼働率向上で、 エネルギー効率を高める ②環境への負荷低減を 目的とした商材の販売拡大

(2)運用期間の実績

I. 二酸化炭素排出量の削減

削減目標の達成度＝目標÷実績(%)

年 度		基準	運用期間における実績			
項 目		2017年度	2023年度			
			目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	412,653	387,894	227,589	170.4%	○
	対基準		△6%	△45%		

1)電力使用量削減

取組み		コメント				
①事務所内節電運動の継続 ②貸室の室内点灯と空調作動タイミングの調整		貸室利用件数は前年度に比べて20%近く増えた一方で、電力使用量は約4%減らすことができた。駐車場のLED本数を明るさに問題ない範囲で減らしたことで、冬場を前年度以下で乗り切ったことが大きい。				
年 度		基準	運用期間における実績			
項 目		2017年度	2023年度			
			目標	実績	達成度	評価
電力使用量 ※中国電力2017年度調整後係数 0.677kg-CO ₂ /kWh	kWh/年	575,507	540,977	312,709	173.0%	○
	kg-CO ₂ /年	389,618	366,241	211,704		
	対基準		△6%	△46%		

2)ガソリン使用量削減

取組み		コメント				
①社有車利用時のエコドライブ推進 ②社有車以外の移動手段活用		社有車の使用が増え、前年度より走行距離が多少伸びたが、ガソリン使用量は下回った。エコドライブの浸透に加え、前年度に続き社有車を1台処分したことが影響した。				
年 度		基準	運用期間における実績			
項 目		2017年度	2023年度			
			目標	実績	達成度	評価
ガソリン使用量 ※ガソリン換算係数 2.32kg-CO ₂ /ℓ	ℓ	9,929	9,333	6,847	136.3%	○
	kg-CO ₂ /年	23,035	21,653	15,896		
	対基準		△6%	△31%		

Ⅱ. 廃棄物排出量の削減

取組み		コメント				
一般廃棄物	①ミスコピー防止の継続	貸室利用や売上に連動して印刷枚数も増えたが、一般廃棄物の排出量はその割合を下回った。定期的にコピーの無駄削減を呼びかけた効果と見る。				
	②簡易包装商品の積極購入等					
産業廃棄物		①産業廃棄物のリサイクル率向上 使っていなかったプレハブ冷蔵庫やロッカーを処分したため、産業廃棄物の処分量は目標値を上回った。汚泥は前年度よりも減らすことができた。				
項 目	年 度	基準	運用期間における実績			
		2017年度	2023年度			
一般廃棄物	kg	3,088	目標	実績	達成度	評価
	対基準		△6%	△36%	148.0%	
産業廃棄物	kg	2019年度 1,796	1,724	1,040	165.8%	○
	対基準		△4%	29%		

Ⅲ. 水使用量の削減

取組み		コメント				
①トイレ利用時の節水意識啓発	②会館利用者に節水のアナウンス	貸室利用件数の増加率(20%)に比べて、こちらは6%増と低く抑えられた。引き続き節水を呼びかけたい。				
項 目	年 度	基準	運用期間における実績			
		2017年度	2022年度			
水使用量	m³	2,386	目標	実績	達成度	評価
	対基準		△6%	△28%	130.9%	

Ⅳ. 化学物質使用量の削減

取組み		コメント				
空調機器がPRTR物質を使用していないか 引き続き確認		PRTR法の指定物質を使用している油脂や塗料は使用していない。 今後も引き続き注視していく。				
項 目	年 度	基準	運用期間における実績			
		2017年度	2022年度			
化学物質使用量	kg	0	目標	実績	達成度	評価
	対基準		—	—		

Ⅴ. 紙使用量の削減

取組み		コメント					
①両面印刷や裏紙利用を促進 ②PDF活用でペーパーレスを推進 ②印刷単価が安い外注化促進		前年度に比べて12%近く増えたが、売上増により原単位実績は抑えられ効率運用ができた。コピー機利用状況を共有して、両面印刷や裏紙利用も継続している。					
項 目		年 度		運用期間における実績			
		2019年度		2023年度			
				目標	実績	達成度	評価
紙使用量	枚	381,250		366,000	287,500	127.3%	○
	対基準			△4%	△25%		

Ⅵ. SDGsの取り組み推進

取組み		コメント					
①貸会議室等、稼働率を向上して、エネルギー効率を高める		エネルギー効率の指標とする貸室稼働率は回復傾向にあるが、コロナ前の基準年度の水準には達していない。 環境対策商材の販売は引き続き取り組んでいる。					
②環境負荷低減を目的とした商材の販売							
項 目	年 度	基準	運用期間における実績				
		2017年度	2023年度				
			目標	実績	達成度	評価	
SDGsの取り組み推進			①貸会議室の稼働率上昇に向け営業強化 ②環境商材のPRを継続				△
	対基準						

注)評価欄にて、○:達成、△:やや未達成、×:未達成

□緊急事態の対策および実施

◎火災対応訓練を、2023年12月27日(水)14:00～15:30に実施しました。

火災発生の場合、避難誘導など緊急対応を適切に行うことにより、貸室・駐車場利用者と従業員の安全を確保し、火災による環境汚染を防止する必要があります。その事態に備え、毎年訓練を実施しています。



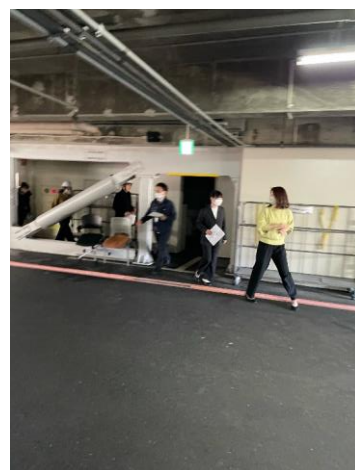
【消火器訓練】水消火器で消火訓練



【防災センター内】
館内アナウンス手順の確認



【消火作業訓練】
消火器・消火ホースで火元消化訓練



【貸会議室・駐車場利用者への呼掛け】
逃げ遅れた利用者がいないか確認

□環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	収集業者の収集運搬・処分について、契約書による許可状況を確認 産業廃棄物管理票で処理内容と流れを確認	遵守
フロン排出抑制法	空調機器や冷蔵庫等の廃棄時のフロン類の回収の流れを確認	対象なし
消防法	防火管理者の届出、消防計画の作成、消防訓練の実施、 消火設備・火災警報設備の点検実施	遵守
下水道法	排水設備清掃報告書による排水基準の遵守 産業廃棄物管理票による処理内容と流れを確認	遵守
家電リサイクル法	引取業者への適切な引き渡しを確認 リサイクル料金の支払い	対象なし
自動車リサイクル法	引取業者への適切な引き渡しを確認 リサイクル料金の支払い	対象なし
プラスチック資源循環促進法	排出の抑制・適切な分別排出の努力 従業員の教育訓練 実施状況の把握と記録	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等は、過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

最重要視している電力使用量の削減において目標を達成できました。経済活動の活発化に加え、夏場の記録的な猛暑のなかでの達成は高く評価できる結果だと思っています。社内全体で浸透してきた節電への意識を継続させ、新たな取り組みについても検討を続けます。一方、水道使用や紙使用量においては、一部、目標を達成できない期間がありました。会館利用者へ向けた節水への協力の呼びかけを検討するとともに、ペーパーレス化の推進を進めていきます。また、水害リスクが高まっている昨今の気象状況を踏まえ、今年度は水害訓練についても実施すべく準備を進めます。

指示事項

- | | |
|--------------|--|
| 1. 環境経営方針 | ☒ 変更なし ☐ 変更あり |
| 2. 目標・環境活動計画 | ☒ 変更なし ☐ 変更あり |
| 3. 実施体制 | ☒ 変更なし ☐ 変更あり |

2024年5月20日

代表取締役社長 出田 秀

口環境経営活動の紹介

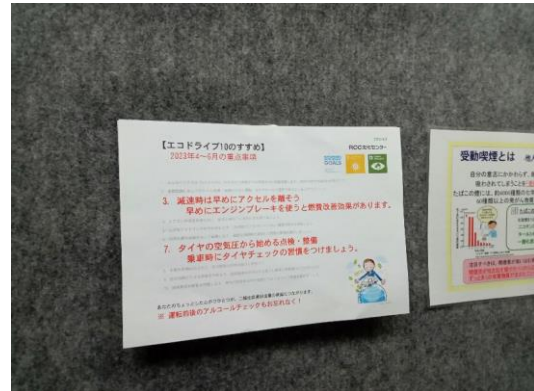
◎ガソリン使用料削減(5・6ページ関連)

○「エコドライブ10のすすめ」を継続

従業員への啓発のため、事務所内掲示板や駐車場に向かうエレベーター内に強化項目を掲示しています。(3か月ごとに更新)



事務所内に掲示(2023年10~12月)



エレベーター内に掲示(2023年4~6月)

◎SDGsの取り組み推進(6・7ページ関連)

○SPD(雷サージプロテクター)の販売

雷サージから、オフィスや工場内のパソコンや精密機器を守るため、販売代理店として提案しています。

雷対策には、SPD「Surge Protective Device」
過電圧から精密機器などを防護する機器

BCP対策に必要です！
雷サージ(雷の影響により発生する過電圧)から機器を守り、操業停止やセキュリティシステム故障を防ぎます！

避雷針があるから
防範しないよ！
※日本では建築基準法により20M以上の建物には
避雷針(避雷設備)の設置義務があります

そう思っている方も多いと思います。。。が、
避雷針は落雷による「建物の火災防止用」であり、
建物内部の人と物を保護するものではありません。
「建物内部の人の感電防止」及び
「建物内部の物品の毀損防止」として役割を担っているのが
SPDです。

雷サージの発生は防げませんが、雷サージの侵入を阻止すれば被害は減らせます！

■日本は雷がよく落ちる？
2005~2017年の12年間に気象庁から報告のあった雷害害の数は1,540件。月平均で10件以上被害が発生しています。(気象庁HPより)

■雷サージ被害はどこでも発生する
①建物や避雷針への直撃により、
経路もしくは接地面から電流が流れ込むことによって発生
②電線・電話線・通信線など金属線路から
電流が流れ込むことにより発生
※雷が遠くで落ちているからといって必ずしも安心ではありません。

【SPDの動作原理】
平時は絶縁体であるが、雷サージ導入時はほぼ導体として
雷害アースに過大電流を流し機器を保護。

【当社で扱う低圧用SPDの特徴】
○国内特許品で最大400KAまで対応可能。(通常雷は1~200KA)
○UL(FAB)保安装置安全試験所)から認証を受けた品質保証品。
○雷撃面、誘導面にも対応可能。(AC100Vの場合1.5Vから動作開始)
○配電用変圧器の2次側から各車線の分電盤2次側まで適用可能。
(設置箇所は電力会社との責任分界点によって異なります。)

【対応事例】
○九州のある通商設備では年に1回以上、雷サージによる機器故障被害で困窮するに最大3週間を要し、大変悩まれましたが、平川製作所SPDを施工後、雷害や雷サージによる機器故障被害はなくなりました。
○灯台や空港をはじめとした多くの重要設備にSPDを納入しています。
○国の重要文化財がある奈良の寺をはじめとした多くの寺院にSPDを納入しています。

【設置例】

参考価格
SPD箱 プラスチック2素子型(車道2線用) 約75,000円(税別)
SPD箱 プラスチック4素子型(車道3線・三相用) 約150,000円(税別)
※設計費・工事費は別途必要です。

お問合せ RCC文化センター
TEL : 082-222-2236

⇒《SDGsターゲット9.4 環境に配慮した技術の導入》への貢献



○紫外線除菌機能付きサーキュレーター『HERSCHCEL(ヘルシエル)』の販売

ウイルス・雑菌対策として、ウイルスの不活化等に効果がある紫外線灯を入れた空気循環器を全ての貸会議室に設置しています。また、販売代理店として提案していて、オフィスや老健施設などで好評をいただいております。

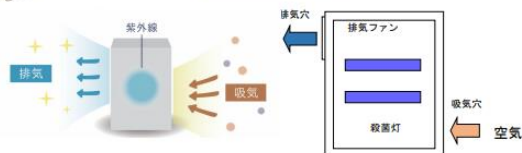
紫外線除菌機能付きサーキュレーター「HERSCHCEL」とは

～紫外線のチカラ～



機械の内部に紫外線灯を設置。内蔵のファンで室内の空気を取り込み紫外線をあてて、ウイルスや雑菌を除菌・抗菌。清浄な空気を送り出します。

中身、見た目はシンプルですが、光科学の応用が詰まっています！



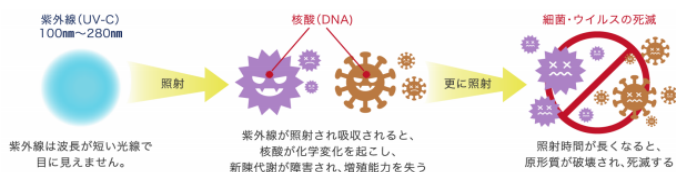
ウイルス・雑菌対策 紫外線除菌機能付きサーキュレーター

1

紫外線 (UV-C) の特徴

～紫外線のチカラ～

地球上の生命体の遺伝情報を破壊する有害な紫外線でウイルス・雑菌が持つDNAの鎖を断ち切ります。



【メリット】

- 物理的殺菌。化学反応により食品などの対象物を変質させる心配がありません。
⇒食品衛生の観点から食品生産工場で活用されています。
- ウイルス・雑菌に有効⇒地球上の生命体を持つ遺伝情報の鎖の基本構造は全て同じ。
効かないウイルス・雑菌なし。

【デメリット】

- 生物に有害。さらに有機物の多くを分解する。開放空間での強照射ができない。
- 物質透過力が弱く、固型物内部の殺菌・消毒などはできない。

例1) インフルエンザウイルスの場合、約 $7 \text{ (mJ / cm}^2\text{)}$ の紫外線Cのエネルギーを与えると不活化。(Kaufman, J.E, IES Lighting Handbook 5th Ed., 1972)
例2) 結核菌の場合、約 $18 \text{ (mJ / cm}^2\text{)}$ の紫外線Cのエネルギーを与えると殺菌される。(Water Environment Federation, Wastewater Disinfection. Manual of Practice FD-10, 1996)

(波長254ナノメートルの紫外線照射)

微生物	殺菌に必要とするエネルギー(照射量)(mJ/cm ²)
大腸菌	5.4
インフルエンザウイルス	6.6
コレラ菌	10.2
ロタウイルス	24
アデノウイルス	90

(出典元 東芝林研病院など調べ)

2

⇒《SDGsターゲット3.3 感染症に対処》への貢献
⇒《SDGsターゲット9.4 環境に配慮した技術の導入》への貢献



○広島県の伝統芸能「神楽」の振興活動

看板事業として神楽大会の企画運営などを手掛け、地域に古くから伝わる文化を守る活動を続けています。4月～12月の毎週水曜日には、広島県民文化センターで定期神楽公演を実施し、たくさんの神楽ファンが訪れました。



⇒《SDGsターゲット11.a都市部、農村部間の良好なつながりを支援する》への貢献